杉家の人々

杉百合之助常道　松下村塾の東隣、幽囚室のある家、これが松陰先生の父君杉百合之助常道翁の宅である。字は伯兼 号は信耕 及び 実兄 杉民治

杉家は代々毛利氏に仕え、百合之助祖父文左衛門徳卿 杉家三代 の時代から萩城下川島の里に住んでゐられたのであるが、百合之助十才の春、文化十年三月、城下未曽有の大火に会ひ、家財書籍類など一切焼き尽されてしまつたので、父七兵衛常徳夫妻は十三才の長子百合之助、七才の次男大助 後の吉田賢良 四才の文之進 後の玉木文之進 及び女の子の三男一女を伴れて、萩の東郊松本村に転居されたのであつた、百合之助兄弟等はこの松本の里に於て、さゝやかな生活を営みながら、父に導かれて農耕に従事しつゝ、読書勉学に精励されたのであるが、文政七年八月、百合之助二十二才の時に父常徳は病のため遂に黄泉の客となられたのである。

そこで、その翌文政八年、年の暮もせまつた十二月十五日、村田右中の三女滝子 後詳 を娶られたのであつて、当時百合之助は二十三才、滝子は二十才であつた。

恰度その頃護国山 俗に東光寺山といふ 南麓団子巖（だんごいは）の下に、城下江向の八谷聴雨の山荘が売りものに出ていたので、これを求めて引越し安住の家と定めたのが、松陰先生誕生地たるいまの樹々亭跡 後詳 であつて、松陰先生兄弟は後にこの家を出でまたは山屋敷とも呼んでおられるのである。

かくして、百合之助夫妻の間には結婚後三年目の文政十一年には長子梅太郎 後に民治と改む が生れ、天保元年には寅次郎 松陰先生 が生れ、同三年には長女の千代子が誕生し、続いて寿子（ひさこ）・艶子（つや）・文子・敬三郎の三男四女が出来たのであるが、艶子がわか死したので、三男三女の厳父慈母として、愛と誠をつくして子女の訓育教養に力を致し、耕圃の間、なほ読書修学

松下村塾をめぐりて

福本義亮著

マツノ書店

目　次

行楽一日の松本
昔の渡場たる船津
丘陵に立ちて
萩・松本地名考
松下の悌
地雷火を試用した扇の芝
鯉鱗の松本大橋
小松陰と呼ばれた品川弥二郎
茶匠休和の花月楼
志士の盟主来原良蔵
踏海決士金子重輔
中島の蓮池と大公望
明治大帝侍従武官長岡沢精一
松門の文章家馬島甫仙
粟田山自刃の松門勤皇画士松浦松洞
五百羅漢の通心寺
台湾開拓功労者賀田金三郎銅像
伊藤博文の参籠せし下山天神
松門の傑僧釈提山
松陰神社
祭神贈正四位吉田矩方―神社建設由来―
神主―鳥居―拝殿―神殿と神庫―松下村塾―松門出身の著名門生―幽囚室―
米搗台―村塾の標札―松陰先生の詩歌
誉は高し殉国門生の松門神社
杉家の人々
士道の権化父百合之助常道―忠孝両全の兄民治―堅忍貞淑の母滝子―夢物語
禁門の闘士阿座上正蔵
薩長土聯盟・放火の聖地
松下村塾の維持者久保五郎左衛門久成
松門の智者久保清太郎
池田屋事変の闘士松門の吉田稔麿
整武隊々長松門の駒井政五郎
奇兵隊士松門の岡仙吉
教育功労者信国顕治
兄弟三人松門の佐々木亀之助
伊藤博文旧宅跡と銅像建設由来
金鋳原大筒鋳造の跡
追放僧宝洲実如
玉翁門の偉傑司法・文部両大臣宍戸璣
連歌師里村玄陳
玉翁門の俊才浅野往来
松門の蔵書家歌人瀬能正路
松陰先生の母方大人児玉祐之
吉田家と松陰先生養父吉田大助
心学婆さんの赤穴辰之進
私塾先生渡辺松菊園
松門兵学生藤野荒次郎
悲憤別涙の松門倉橋直之助
晩年名村長となった口羽寿次郎
松陰先生終生の師玉木文之進とその弟子乃木将軍
藩医岡田以伯と十歳入門のその子耕作
奇兵隊総督高杉晋作・潜伏の跡
松陰先生叔母の宅佐々木孫右衛門
松緑焼と名工大和作太郎
松陰先生誕生地・樹々亭跡
杉・玉木・久坂家墓地
吉田家墓地と松陰先生百日祭

目　次

松籟颯々たる勤皇烈士の墓所
風雅掬すべき東光寺焼
護国山東光寺と藩公御廟所
甲子殉難招魂碑と辞世の詩歌
台湾教育の犠牲者楫取道明
耶蘇の大木とビリオン神父
円福院と七観音
春月の上野山
松門の内務・司法両大臣山田市之允
松下村塾の後継教頭塩田寅助
隠れたる儒者落合虚舟
越後出雲崎で傷死した堀潜太郎
松下村塾の後継者小田村伊之助と弟小倉健作
野山十一烈士松島瑞益
天文学者の松本源四郎
東源山明光寺
幽境和楽の人丸神社
狂歌師内藤白露園
唐人山と天樹公
萩焼本流の坂窯
手水川刑場と栗山孝庵の解剖
霊顕不思議なる金峰権現社
長門三十三番順礼御札所金峰山徳蔵院
花園院にゆかりの入道原
花園上皇の勅願所広厳寺
狂女の神託による諏訪大明神
俳人入江護石
海防僧月性と東谷山明安寺
奇儒高橋樂水
藩窯三輪の萩焼
喝宗和尚の吉祥山長慶寺跡
蓬莱園に子弟を養ふ松門黒瀬安輔
酒瓢を枕にした奇行画人福井松僊
華末の郡司大砲鋳造所跡と・つきとめ明神
松下村塾の前身高洲為之進の宅
蘭学三年の松門斉藤彦四郎
奇兵隊参謀林半七
軍政家岡市之進と維新討幕の錦の御旗
中央気象台創立者中村精男
香川津二孝子終焉の地
勤皇画士　森　寛斉
奇兵隊運送方松門の伊藤伝之助
松陰先生を世話した野山獄辛白石採助
松陰先生と地勢論
山河秀麗の地よく偉人を生ず―護国山麓の雄大なる風光―巴城に冠たる松下の景勝―松下村塾記―松陰先生誕生地樹々亭―東光寺と諫臣山田原欽―唐人山と高麗焼―花園の市と広厳寺―松陰先生と諏訪大明神―華末大筒鋳造の跡―城之越古城跡―弁慶岩と田床―一葦帯水の朝鮮―松陰先生の山河霊気観
（附　録）
松陰先生年譜略
杉・吉田・玉木略家系
松陰神社建設由来

■福本義亮（号・椿水）は、現在の萩市椿東に生まれ、神戸の実業界で活躍した。とくに同郷の先輩である吉田松陰に対する傾倒ぶりは他の追従を許さず、私財を投じて遺墨や関係史料を収集し、著述、講演活動も精力的におこなった。戦前の、在野における松陰研究の第一人者であり、松陰研究史は福本の業績抜きには語れない。

■二十点ほど出版された福本義亮の松陰に関する著作のうち『松下村塾をめぐりて』は、とくに他に類書が一切無い異色の松陰研究書であるといえよう。昭和十一年秋新嘗祭の日に初版が、同三十二年九月に改訂増補版が、いずれも福本の自費出版として世に出た。現在では希覯本であることはいうまでもない。このたび復刻するのはその「改訂増補版」である。

■『松下村塾をめぐりて』は、松下村塾、松陰神社を中心に、松陰が生まれ育った松本村という土地の風土、歴史を徹底的に調べ上げた労作である。これは地元出身の福本なればこそ出来た、唯一の『松本村史』とも呼べる内容である。

■「松下陋村といえども誓って神国の幹となさん」とは松陰の有名な言葉である。その言葉通り、松陰がたった二年半主宰したにすぎない松下村塾からは、高杉晋作、久坂玄瑞をはじめとする、幕末から明治にかけて活躍する多くの人材を輩出した。それも全国から優秀な人材を集めてきて教育を施したならまだしも、彼らはすべて近所の少年達に過ぎなかったのだ。松本村という土地の個性を知らなければ、松陰や松下村塾を理解することはとうてい出来ない。

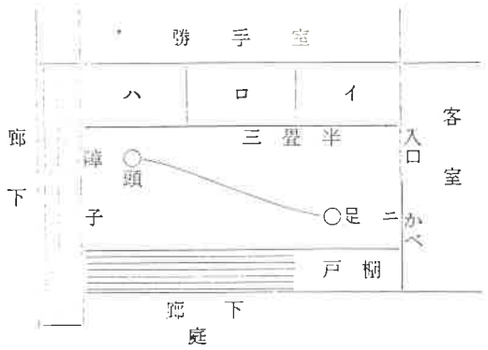
■福本の祖父も父も長州藩士として数々の維新の戦いに参加している。福本の世代にとって維新史は身近なものであり、それだけに本書でしか読めない数々の秘話が満載である。

福本義亮主要著作目録
①松陰先生交友録　②踏海志士金子重輔傳　③吉田松陰の殉国教育　④松下村塾偉人久坂玄瑞　⑤吉田松陰孫子評註訓註　⑥松下村塾をめぐりて　⑦訓註吉田松陰殉国詩歌集　⑧照顔録訓註　⑨幽囚録訓註　⑩坐獄日録訓註　⑪読綱鑑録訓註　⑫吉田松陰之最期　⑬吉田松陰の母　⑭下田に於ける吉田松陰　⑮吉田松陰大陸南進論　⑯吉田松陰愛国教育　⑰松下村塾をめぐりて（改定増補版）　⑱踏海志士金子重之助（改訂版）　⑲湊川一死　⑳訓註留魂録　㉑松陰余話　㉒久坂玄瑞全集（4の修正復刻版）

（松下村塾）

■体　裁　A5判二二四頁　並製箱入
■特　価　三千円（〒共）
■定　価　四千円（〒380）
■三点セット特価
申込ハガキをご覧下さい
■特価締切　98年6月30日、
■発　売　98年6月10日
▼品切れの際はご容赦願います。
▼書店には卸しません。
〒745 徳山市銀座2
☎〇八三四㉑二一九五
マツノ書店

幽囚室平面図



(イ) 杉家の仏式祖霊
(ロ) 杉家神祭霊位
(ハ) 吉田家祖先を祭る

○ 松陰先生がこの一室に謹慎されたる期間は (一)安政二年十二月野山獄より帰家し、同三年夏まで専らこの一室に居らる。(二)安政五年十一月二十九日より十二月二十六日再度野山入獄まで、この一室に厳囚とならる。

○ 松陰先生の休まれる時には、記入斜線の様に床を敷かれたりといふ、頭の方は東、京師（皇居）に当り、面せらる方位には遠く藩公の居城があり、近くは祖霊あり、昼は東位に坐せられたりといふ。

○ 室には床間なし、置床（ニ）のみにて、壁間に「三余読書・七生滅賊」の掛物（安芸の至孝人木原松桂筆）を掛け精思工夫せらる。

松門神社

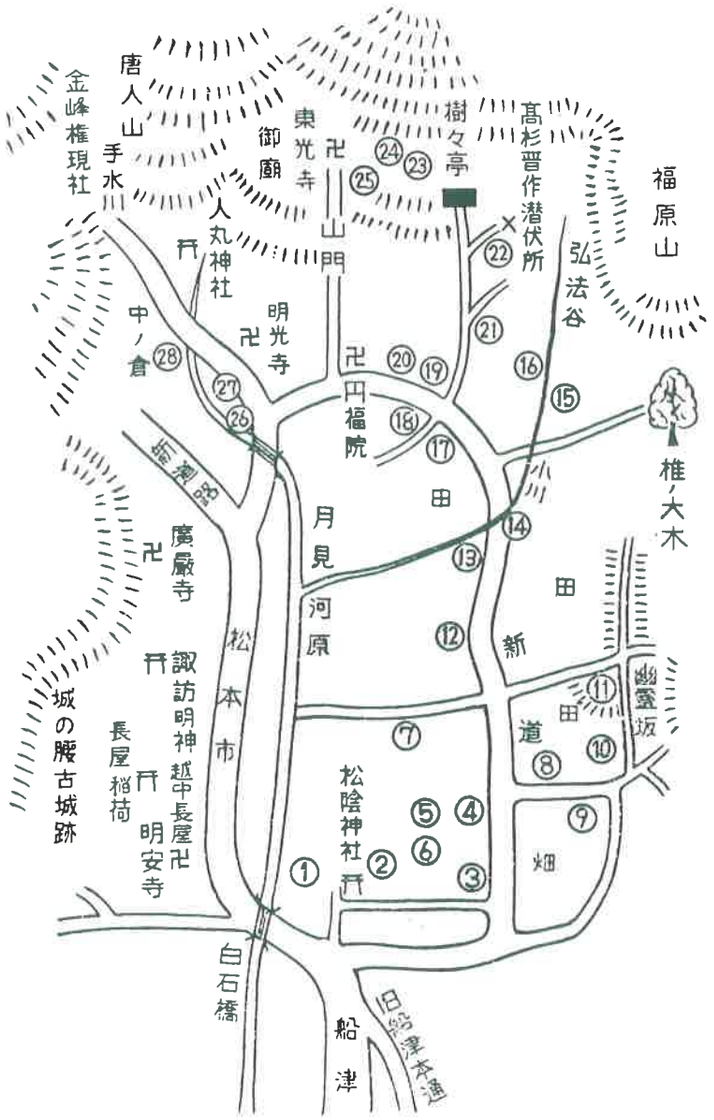
松陰先生はあの幕末維新の国難時に当つて、先づ祖国を愛し同胞を愛し、そして、よりよい社会を創造するため、国内的には仁徳政治を布いて民生を確立し、国際的には平等条約を締結し、諸外国の威圧に屈せず国威を伸張し、開国進取のもとに民族的進展を期せんと、多くの憂国志士を養成されたのであつた。そして此等門生は先生の遺志を承継して何れも一死祖国のために殉難して、その尊き聖血を祖国発展のために捧げ遂に明治維新の変革を完遂したのであつた。

八三

従つて殉国したるものは何れも贈位され、その生き残つて廟堂に立つたものは当時位勲を賜はつたのである、即ち松門の四天王たる久坂玄瑞・高杉晋作・入江九一・吉田栄太郎を始め、木戸孝允・前原一誠・伊藤博文・山県有朋・品川弥二郎・山田顕義・野村靖・寺島忠三郎・松浦松洞・金子重輔・杉山松助・時山直八・馬島甫仙等多くの松門生の神霊を迎へて、こゝに殉国松門神社が創建されたのである。

これは昭和三十一年春、いまの松陰神社新社殿完成御遷座とともに旧社殿（前項、指月城鎮守宮崎神社旧社殿）が不用となつたので、新社殿の西北側に移築されたのであつて、昭和三十一年五月松陰神社春祭の時に盛大な落成式が挙行されたのである。

松門神社創建有感　　福本椿水

維新俊傑自成群。塾師行人説盛勲。
仰見松門師弟社。巴城百載有清芬。

①阿座上正蔵宅　②杉家　③吉田稔麿宅　④佐々木穆之助宅
⑤駒井政五郎宅　⑥久保清太郎宅　⑦里村玄陳宅　⑧伊藤博文旧宅
⑨金鋳原鋳造所跡　⑩宝洲実如旧宅　⑪吉田家　⑫宍戸璣旧宅
⑬浅野往来宅　⑭瀬能正路宅　⑮小田村伊之助旧宅　⑯児玉祐之宅
⑰口羽寿次郎宅　⑱玉木文之進宅　⑲有橋直之助宅　⑳岡田以伯宅
㉑佐々木孫右衛門宅　㉒松緑焼跡　㉓杉・玉木・久坂墓地　㉔吉田家・勤皇諸士墓所
㉕東光寺焼跡　㉖山田市之允宅　㉗落合虎雄宅　㉘椋取素彦旧宅